



宝物館

本堂の隣にあるのは、館内は撮影禁止となっている「宝物館」です。宝物館の内部には、念仏を口から出ている六体の仏像で表現した「空也上人像」をはじめ、教科書に掲載されるような貴重な宝物が展示されています。重要文化財に指定されている「平清盛座像」は、僧侶としての気品を感じさせる静かな佇まいが印象的です。

宝物館は境内に比べると人も少なく、10以上の重要文化財をじっくりと見て回ることができます。日本の彫刻界に多大な影響を与えた運慶・湛慶父子の銅像など、歴史好きや彫刻・仏像好きの心をくすぐる展示ばかりです。



清盛像



南北朝時代に再建された 鮮やかな朱色をした本堂

内部を鑑賞する際は、入口付近で靴を脱いでから上がりましょう。本堂の奥に祀られている「十一面観音立像」は、国宝に指定されている貴重な仏像です。



首塚

京都市内にあたる場所で亡くなった平清盛を祀る首塚は、赤い屋根に守られ存在感があります。平家ゆかりのこちらのお寺には、大河ドラマ「平清盛」で主演を務めた松山ケンイチさんも参拝に訪れたとのこと。



お地藏様

六波羅蜜寺の境内に、山積みになった石が置かれているエリアがあります。沢山の石に見えるこちらの石は、六波羅蜜寺の境内で発見されたお地藏さまです。原型を留めているものから、形が崩れているものまでを一か所に集めて供養をしています。



六波羅蜜寺の正面入り口すぐそばに、「無事かえる」と書かれた標識が見えます。標識の下を見ると、小さなカエルの姿をした石が置かれています。カエルが仲良く並んだこの石は、六波羅蜜寺を訪れた参拝客の無事を祈願して作られたものです。



銭洗い弁天

弁財天堂に加え、六波羅蜜寺の境内にはもう一つお堂があります。堂内は撮影禁止となっているため、写真撮影はお堂の外で行いましょう。本堂の脇にあるこのお堂は、参拝に訪れた多くの方が立ち寄る「銭洗い弁天」が祀られています。銭洗い弁天は、財運や芸能にご利益があると言われる弁財天です。弁財天の目の前には水と小さなざるがあり、小銭をざるに入れて洗いましょう。洗った小銭を六波羅蜜寺の金運御守に入れるか、自分のお守りの中に合わせて入れることでご利益にあやかれます。銭洗い弁天の隣には「水かけ不動」呼ばれる仏像があります。こちらは、お不動様に柄杓を使って水をかけながらお参りしましょう。

赤山禅院

京都御所から見ると、鬼門(東北)の方角にあたるため、方除けの神様として、昔から信仰を集めていたお寺です。

福祿寿の像は、本堂の東側にある福祿寿殿にまつられています。

【赤山禅院】

左京区修学院赤山町

075-701-5181

[HTTP://WWW.SEKIZANZENIN.COM/](http://www.sekizanzenin.com/)



大きな数珠の門は「正念誦・正念珠(しょうねんじゆ)」で、密教の重要な考え方を示したものだそうです。くぐりながら、一心に念じることにより心眼を開くことが出来ると言われています。帰りは、出口付近の「環念珠」門をくぐります。

赤山禪院の由緒

赤山禪院(せきざんぜんいん)は、平安時代の仁和4年(888年)に、第三世天台座主 円仁の遺命によって創建された、天台宗総本山 延暦寺の塔頭のひとつです。

慈覚大師 円仁(794年～864年)は、838年、遣唐使船で唐に渡り、苦勞の末に天台教学を納めました。その行程を守護した赤山大明神に感謝し、赤山禪院を建立することを誓ったとされます。

日本に戻った円仁は天台密教の基礎を築きましたが、赤山禪院の建立は果たせませんでした。その遺命により、第四世天台座主 安慧(あんね)が赤山禪院を創建したと伝えられています。

本尊の赤山大明神は、唐の赤山にあった泰山府君を勧請したものです。泰山府君は、中国五岳(五名山)の中でも筆頭とされる東岳・泰山(とうがく・たいざん)の神であり、日本では、陰陽道の祖神(おやがみ)になりました。

注;泰山府君(たいざんふくん)＝赤山明神＝福祿寿神・・・人間の生死、寿命、福寿をつかさどり、仏教の閻魔王に準じる冥界の神。

皇室からも信仰され、修学院離宮の造営で知られる後水尾天皇(1596～1680)が離宮へ行幸された際、社殿の修築と「赤山大明神」の勅額を賜っています。

現在も方除けのお寺として、広く信仰を集めている由縁です。

また、赤山禪院は、

●天台宗随一の荒行、千日回峰行の「赤山苦行」の寺

●千日回峰行を満行した大阿闍梨により「ぜんそく封じ・へちま加持」「珠数供養」「泰山府君祭」をはじめとする加持・祈禱が行われる寺

●全国の七福神めぐりの発祥とされる都七福神のひとつ、福祿寿の寺

●「五十(ごと)払い」の風習の始まりとなった、商売繁盛の寺

としても知られています。

開創以来、1100年以上もの長い歴史を経て、赤山禪院には数々の由緒が重なり、さまざまな信仰を集めています。